

博士論文の要旨及び審査結果の要旨

氏名 CUI Xu
学位 博士（教育学）
学位記番号 新大院博(教)第32号
学位授与の日付 令和5年3月23日
学位授与の要件 学位規則第3条第3項該当
博士論文名 学校における保健教育の日中比較研究

論文審査委員 主査 教授 笠井 直美
副査 教授 雲尾 周
副査 教授 大庭 昌昭

博士論文の要旨

本論文は日本の学校保健教育及び保健管理をもとにして、東アジアにある日本と中国の学校保健を対比しながら、中国の学校における保健教育を向上させることと日本への照射を狙っている。そのために筆者は、社会体制の制約により限られた統計の中から中国の児童の健康状態、保健教育・保健管理の制度などを明らかにするとともに、実証的な研究として広東省及び山東省の4つの大学において、合計1200人以上の大学生に質問紙調査を行い、その結果を比較分析している。

本論文は以下の通り構成されている。

第1章「中国の児童の健康の現状」では、中国において学校保健を発展させる必要性を論じた。そのために、現在の中国における児童の身体発達状況、児童並びに大学生のHIV感染状況、性的被害に遭った児童の状況、及び教育的影響を受けるマスメディアの発展状況を分析した。

第2章「中国の義務教育段階における保健教育及び保健管理の検討—日中対比の視点をもとに一」では、中国の保健教育及び保健管理における法制度とその発展過程を分析することによる日中両国の学校保健に関する内容の対比について、文献分析法により論考を進めた。中国における保健教育及び保健管理に関する法律、法規、条例、論文、マスメディアによる報道ニュースを参照する。主に使うデータベースはCNKI、北大法宝であり、検索エンジンはBaiduである。日本における保健教育及び保健管理に関する教科書、法律法規、論文を参照する。主に使うデータベースはCiNii Articleであり、検索エンジンはGoogle Scholarである。各データベースに載る論文の数が多いため、主に最近5年の論文を扱い、中国の保健室、衛生室及び保健教師、校医に関する職務や法律法規、日本の養護教諭の職務や法律法規を比較した。

第3章「中国の文化から見る性教育—家庭づくりを巡って—」では、中国のAIDSに係る現

状、「一人っ子政策」の変遷を説明した上で、多言語、多文化、多民族の背景を持つ中国の多様な性文化を分析検討した。LGBT について、日本と中国の社会背景の違いを解釈してから、現代中国社会における女性主義の発展、一人っ子世代の中性化傾向、性に関する問題も明らかにした。改革開放政策、「一人っ子政策」の実施は中国社会に大きな影響をもたらした。性観念が解放され、各種の避妊方法も普及し、徐々に男女とも出世できるような社会になっている。家庭は依然として社会を安定させる最小単位であるため、少子高齢化の進展によって、人口政策が緩くなっている。しかし、HIV などの STIs にかかる者がまだ増えており、LGBT グループが徐々に権利を求める現状がある。将来の世代が豊かな人生を過ごすために、学校教育で幼少期に性教育を行いはじめ、子どもたちが人生を計画的に過ごすことが望まれる。

第4章「中国山東省における大学生の性に関する知識、態度及び行動の調査分析」では、中国山東省の基本情報をまとめた上で、「健康中国 2030 計画綱要」の内容を基に、地域別及び男女別など、山東省の大学における質問紙調査のデータを分析した。さらに、性に関する知識、態度及び行動の特徴を考察し、現在の中国における義務教育段階の AIDS 教育の重要性を提起した。山東省の大学生における性交渉経験率の増加から判断して、性に関する教育を一層充実させるべきである。特に、エイズ及び STIs などの日常生活と強い繋がりのある性に関する知識をより普及させる必要がある。さらに、都市部及び中間部より農村部において、性に関する知識の普及を重視すべきである。また、女子大学生より、男子大学生に対して性感染症のリスクについてより強く認識させる必要がある。

第5章「中国広東省における大学生の性に関する知識、態度及び行動の調査分析」では、中国広東省の基本情報をまとめた上で、包括的な性教育(CSE)の定義を提起し、広東省の大学における質問紙調査のデータを分析した。大学生の半数以上が避妊への期待を持っている、女性や都市部に住むほど避妊意識が高い、大学生の半数以上が性知識で平均以上の成績を収めている、などの分析結果が得られた。また、広東省の幼稚園・小学校の校医に対する半構造化面接の調査結果を整理し、学校現場の保健室や衛生室の実情を明らかにした。

第6章「東アジアの視点から見る日中学校保健教育の対比」では、東アジア共同体という概念の基に、現在、東アジア諸国は経済面の協力が進んでいると同時に、公共衛生面での協力も益々重要になっていることを指摘した。日中両国の学校保健思想の対比によって、学校保健教育という領域において、相互的に参考にできる部分を抽出し、将来的に両者に貢献できることを目指している。また、義務教育段階の学校保健室の役割について、学校教育における人間主義を探求する。さらに、中国の広東省及び山東省の大学生に対する調査を基に、日中の小学校における養護教諭(日)、保健教師及び校医(中)の職務も対比する。

以上の考察(検討)に基づきまとめると本論文は、現代中国の学校教育に足りない部分—保健教育や保健管理、特に性教育が足りないことを論述した。中国青少年に関わる健康教育の質問紙調査のデータを使用したことにより信憑性、科学性や実用性が高く、発展途上にある現代中国社会が抱える問題や解決方法を探求することができた。日本と中国は同じ儒教文化圏にあるため、互いに参考にできる部分がある。少子高齢化などの社会問題について、中国がその経験を参照できれば、中国社会の発展に有益であるとまとめている。

審査結果の要旨

本論文は、学校における保健教育について中国の現状を、社会的、制度的、歴史的に記述し、日本の学校における保健教育と比較対比しながら検討するとともに、大学生への質問紙調査及び校医へのインタビュー調査により独自に中国の実態を明らかにしたもので、今後の中国の学校における保健教育の指針ともなるべき研究である。初発の問題意識から結論にまっすぐつながっていることは、子どもの健康を守ることである。中でも学校保健は児童生徒の発育発達において非常に重要な役割を果たしている。児童生徒は自己判断能力が未熟であるため、中国の小学校における保健教育が必要である。特に近年、食品安全問題、水質汚染、鳥インフルエンザ、PM2.5、児童生徒に対するセクシャルハラスメント、新型コロナウイルス等の問題が次々と発生し、このような複雑な環境で子どもの健康を守ることがより一層重要になってきているからである。

第1章から第3章において、中国の児童の現状、中国の学校保健の現状（日本と対比）、中国文化から見る性教育についての分析は、単なる整理にとどまらず、新たな視点を切り開いてくれるものであった。

第4章の山東省の2大学、及び第5章の広東省の2大学学生に対する質問紙調査と分析は、今までほとんど取り組まれていない実態調査であり、このようなデータが明らかになった価値は極めて高い。さらに、校医にインタビューを行い、その実態を詳しく聞き出している。保健教師へのインタビューと併せ、中国の学校における保健管理の実際の一端を明らかにした貴重な研究を含んでいる点も高く評価できる。

第6章は単なる日中比較ではなく、東アジア共同体という枠組みを設定したうえでの、本研究のまとめとしての位置づけであり、独自性をもって展開されている。

このように、本研究は、学校における保健教育についての優れた研究であり、日中比較により中国に示唆に富むものとなっているが、その分、日本への示唆が直接には語られていないという点が比較研究としては不十分とも考えられる。しかし、中国での校医へのインタビュー実施は、日本における校医は非常勤教職員であり学校には常駐されていないことの対比に繋がり、これらの諸点から日本への照射は十分に読み取れるものとなっている。

質問紙調査について見ると、第5章は χ^2 検定、ロジスティック回帰分析、調査結果の主成分分析等を行っているが、第4章が一次的なクロス分析にとどまっている点は解析が不十分との考えもある。しかし、研究の順序性と発展性、多様な分析方法という視点をもてば、このような設定もあってよいと考えられる。

第6章になって東アジアという新たな視点が提示されたことについては唐突感も否めないが、著者が精力的に研究を行う中で視野を広げ投稿した学会誌での展開を応用したもので、研究のまとめとしては必要であったと考えられる。

このような疑問等はあるが、いずれも本論文の学術的価値を損なうものではない。

なお、本論文は、学校における保健教育を主な研究対象としていることから、博士（教育学）が適当であると判断された。

以上の審査結果から、本論文審査委員会は、全会一致で、本論文が博士論文としての水準に達しており、博士（教育学）の学位を授与するに値するものと判断した。